

大阪・関西万博のテーマの具体化及び開催計画の基本的な方向性の検討に向けて

大阪府立大学研究推進機構教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所所長
橋爪紳也

以下、資料4において提示された本検討会で精査すべき論点に沿って、今後、詳細の検討が想定される事項に関して、若干の私見を記しておきたい。

1 テーマの具体化

(1) 全般

- ・ テーマ施設は、Society5.0の社会モデルを具現化し、内外に広く伝えるものであるべき
- ・ 世界中の「Lives」に働きかける博覧会とするべき。たとえばテーマを展開する施設は、「Saving Lives」「Empowering Lives」「Connecting Lives」の枠組みに沿った展開が検討されて良い（テーマに添いつつ、人類文明の将来に関して、楽観的なシナリオを提示しつつ、いっぽうで直面する危機に警鐘を送ることも必要。ただし人々を感動させ、なおかつ日本独自の洗練を加味したエンタテインメントとして昇華させることは不可欠。）
- ・ 会期中に世界中の人がアクセス。数十億人のコメントが会場に寄せられるような工夫など。たとえば世界各地にサテライトを設置、100万人の合唱などもあって良い
- ・ 成果を示す場であった従来の博覧会とは異なり、絶えず何かが創生されている場とするための工夫。たとえば多くのアーティストが会期中に共創して巨大なアート作品を創作、博覧会を契機として寄付を集めつつ建築する象徴的なモニュメントを会場跡地に構築するなど。（フランスと米国の市民による寄付で建造したニューヨークの自由の女神像や、バルセロナの聖家族教会などが先例）

(2) SDGsの達成に向けて

- ・ 会期中および開催までの機運醸成段階にあって、世界各地で行われているSDGsの達成に向けたベストプラクティスを紹介（会期中はリアルな展示、開催前はバーチャルな会場設営と連動）
- ・ 開催までの準備段階にあって、SDGsの達成に向けた活動と地域のマッチングを促す活動があって良い
- ・ 国連にSDGsの達成に関連する出展を要請することも必要（ちなみに1970年大阪万博の国連館では、刻々と増える世界人口をリアルタイムの推計数で展示。問題提起とした）

(3) 地域経済の活性化

- ・ 万国博覧会への共同出展などを契機に、技術力のある中小企業、中堅企業が、世界に飛躍する機会となる支援策が必要

- ・ 博覧会の開催を契機に、大阪の都市模型と投資案件の所在や概要を、訪日した起業家や投資家にわかりやすく示す「都市展示館（仮称）」を仮設することも検討されて良い（上海の都市計画展示館など、ロンドン、北京など各地に類似の施設は存在）

（４） 社会実験の推進

- ・ 想定されているモビリティ、都市計画、医療、環境分野のほか、会場計画にあって通信、警備、防災などの最新技術を会場の内外で実装
- ・ あわせて博覧会の開催までに、居住環境整備、資源探査、資源保護、文化財修復、都市型農業など、各国の研究機関と連携しながら、さまざまな社会実験を、関西全域で展開すべき
- ・ WAKAZO が提言している「エピジェネティクス建築」、さらに展開した「エピジェネティクス都市」概念を深化させつつ、運動体として展開することもあって良い
- ・ 宇宙開発と連動した、日本における技術開発の可視化など。2020年代には、火星への人類の踏査などが実現することを想定。宇宙船との中継や、NASA、JAXA や大学機関と連携、小惑星や火星の環境を再現した展示などもあって良い

（５） 共創

- ・ 特定の主題に特化したオンライン・プラットフォームを複数設けて、そのプロセスと成果をテーマ館などに反映させる
- ・ 次世代の若いクリエイターによるプラットフォームを設けて、その成果を計画に反映する方法の検討。たとえば「WAKAZO 館（仮称）」の具体化など
- ・ 愛・地球博で模索した NPO や NGO の万博での役割の再確認。2025 年万博に向けた連携の検討など
- ・ 会期中に世界中の人がアクセス。数十億人のコメントが会場に寄せられるような工夫など。世界各地にサテライトを設置、100 万人の合唱などもあって良い。（前掲）

2 会場・輸送計画の具体化

（１） 会場計画

- ・ 会場計画の具体化に向けたデザイン、構造、コストなどの検討
- ・ テーマ館、ホールや催事場、迎賓施設など、主催者側が設置すべき諸施設の具体化に向けた検討。資材の搬入ルートなどのバックヤード等、運営側からみた会場計画の考え方の整理も必要
- ・ テーマ施設は、Society5.0 の社会モデルを具現化するものであるべき。あわせてテーマを展開する施設として、「Saving Lives」「Empowering Lives」「Connecting Lives」の枠組みに沿った展開が検討されて良い（前掲）
- ・ 企業パビリオンのあり方の整理、飲食や物販などサービスの施設の検討。水面上の利活用などによる主催者によるエンタテインメント、アミューズメントゾーンの設置の是非、アトラクションの具体化などの検討も含む

- ・ 混雑の緩和に向けた案内機能に関する技術的な検討（ビッグデータの活用による混雑緩和、入場時のセキュリティ対策の合理化、チケットングに関する考え方の整理も含む）
- ・ 会場内での快適性と滞在魅力創出方法の工夫の検討
- ・ 会場内での魅力的な各種移動手段の検討
- ・ 大阪湾に開く眺望景観を生かす工夫の検討
- ・ 各パビリオンの設計に関するガイドラインの検討。先例のない魅力的な景観、夜景創出の工夫なども含む

・

(2) 輸送計画

- ・ 会場への輸送計画の精査（鉄道やバス、会場、航空等。シャトルでの移動を想定する場合、舞洲あるいは市内の他の場所に大規模な駐車場を確保することが求められる）
- ・ 水上飛行機や豪華クルーズ船の寄港など、瀬戸内および西日本に展開する観光事業との連携可能性の精査。大阪市内の舟運および淀川舟運との連携可能性の検討
- ・ ビッグデータを活用、来場者の分散や待ち時間のない運営を実現するための技術検討
- ・ 会場内での魅力的な各種移動手段の検討（前掲）

3 その他

- ・ 2025年に向けてカウントダウン行事と、共創による機運を盛り上げる催事の実施。たとえば音楽フェスやアートフェスの開催、ロゴやシンボルマークなど各種デザインに関するコンペの実施などが想定される
- ・ カウントダウン行事と連携しつつ、日本全国で連鎖、リレーするかたちでの、万博の機運を盛り上げる事業展開が必要（たとえば、オリンピックに聖火リレーがあるように、SDGsの達成やBIEの今後の活動に貢献する行事を、新たに創案し、以後の万国博にも繋げてゆく発想があって良い）
- ・ 大阪市内などに、国際博覧会の歴史と意義を展示する常設のギャラリーやミュージアムを開設、海外からの関係者の来日に応じて接遇の場とできないか。BIE加盟国や企業出展への説明会場や、出展に関する調印式会場を兼ねることもあって良い（上海万博の開催前などに先例）
- ・ BIE加盟国との個別の連帯を示す地域単位の活動の強化。万博に向けて、関西各都市の姉妹都市、友好都市事業の活性化をはかることができないか（大阪でのオリンピック招致活動の際には、一国一商店街活動を展開した事例もある）
- ・ 国際博覧会の歴史と意義を伝えつつ、日本の国際博覧会出展の歴史、1970年万博、愛・地球博、2025年万博の意義を訴求する展覧会の海外開催。国内展を経て、海外での巡回展を想定。（明治期の万博における日本政府出展の目玉であった名古屋城の金鯱の再評価なども含む）
- ・ 2025年、万博開催時における関西広域での関連事業のあり方、枠組みの検討。（愛・地球博の際のサテライト会場、名古屋城内での催事のあり方などが先例）
- ・ 上海博やミラノ博など近年実施された博覧会、およびドバイ博など準備中の博覧会にあって、

計画途上での課題、レガシー、実施後に派生した課題などに関して、現地において精査することが必要